

## 4. 無電柱化の推進に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

### 4.1 無電柱化の低コスト化に向けた取組み


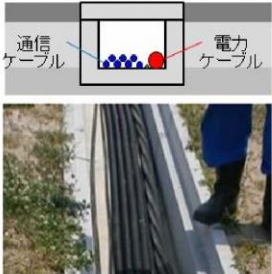
無電柱化の低コスト化に向けた取組みとして、国や東京都は以下に示すような検討を行っています。多摩市においては、このような国や東京都の動向を注視し、低コスト手法の活用についても検討します。

#### （1）新たな埋設方式の開発

無電柱化の一般的な方式である電線共同溝方式は、多額の費用を要するため、無電柱化が進まない要因の一つとなっています。

こうした中、国は、収容する電線類の量や地域における需要変動の見込み、道路交通の状況、既設埋設物の状況等に応じて、メンテナンスを含めたトータルコストにも留意しつつ、低コスト手法である浅層埋設方式や小型ボックス活用埋設方式、直接埋設方式の採用によるコスト縮減を図るものとしています。

表-4 新たな埋設方式

管路の浅層埋設 (実用化済)	小型ボックス活用埋設 (実用化済)	直接埋設 (国交省等において実証実験を実施)
<p>現行より浅い位置に埋設</p>  <p>管路の事例(国内)</p>	<p>小型化したボックス内にケーブルを埋設</p>  <p>小型ボックスの事例</p>	<p>ケーブルを地中に直接埋設</p>  <p>直接埋設の事例(京都)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>浅層埋設基準を緩和(平成28年4月施行)</li> <li>全国展開を図るための「道路の無電柱化低コスト手法導入の手引き(案)」を作成(平成29年3月発出)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル施工(平成28年度～)</li> <li>電力ケーブルと通信ケーブルの離隔距離基準を改定(平成28年9月施行)</li> <li>全国展開を図るための「道路の無電柱化低コスト手法導入の手引き(案)」を作成(平成29年3月発出)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接埋設方式導入に向けた課題のとりまとめ(平成27年12月)</li> <li>直接埋設用ケーブル調査、舗装への影響調査(平成28年度)</li> <li>実証実験を実施(平成29年度)</li> </ul>

(出典：国土交通省HP)

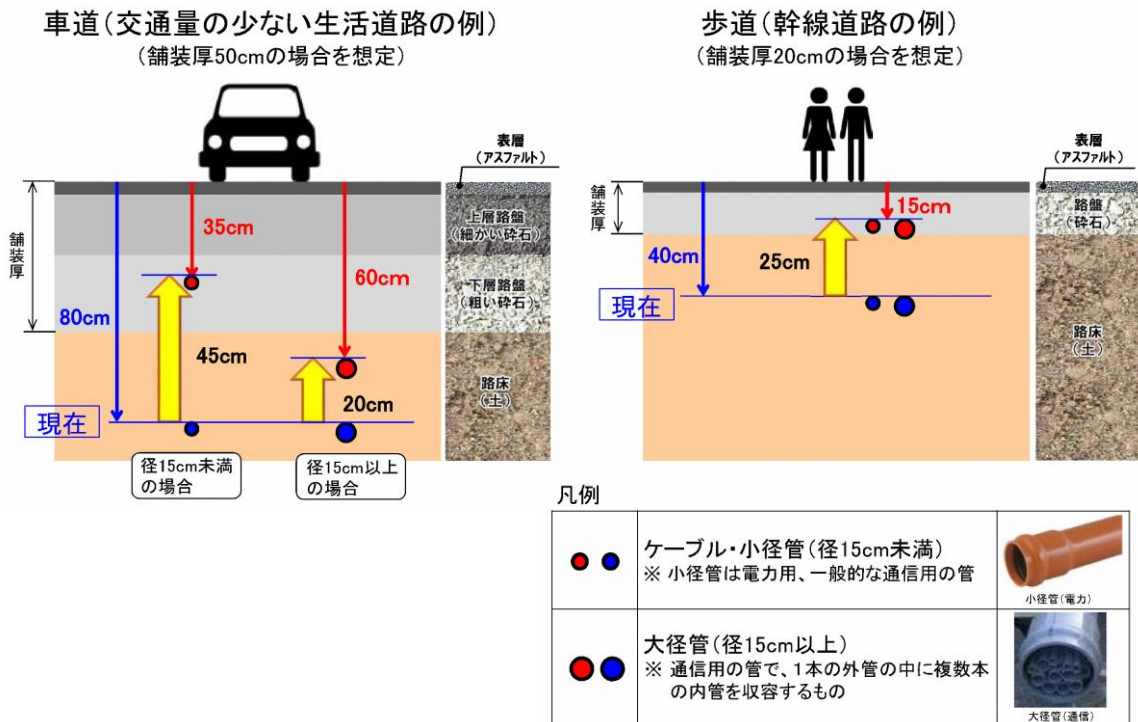
一方、東京都では、2017(平成29)年1月にコスト縮減に向けた技術検討会を設置し、管路を浅く埋めることによる土工の減少、新たな管路材料の採用による材料費の削減・施工性の向上、特殊部の小型化による支障移設の回避等の検討を進め、低コスト手法の確立を図っています。2018(平成30)年3月には、これらを取りまとめた東京都電線共同溝整備マニュアルを改定するとともに、幅員の狭い道路における電線共同溝の整備にあたって検討すべき項目や手法等の事例についても示しています。

(2) 埋設基準の改定

2016（平成 28）年 4 月 1 日より、電線類を従前の基準より浅く埋設するため「電線等の埋設に関する設置基準」が緩和され、交通量の少ない生活道路で道路（※1）の舗装厚さが 50cm の場合、電線の頂部と路面との距離は、これまでの 80cm から最大 35cm（※2）まで浅くすることが可能となりました。

※1 舗装設計交通量 250 台／日・方向未満の道路

※2 ケーブル及び径 150mm 未満の管路を設置する場合



(出典：「国土交通省HP」)

図-12 埋設基準の改定

(3) 管路材料

以下のような新材料や高価な曲管材に代わる曲管レス構造や角型 F E P 管が開発されています。新たな開発情報を継続的に調査、収集し、活用できる最新の材料・工法の採用を検討します。

表-5 新しい管路材料の例

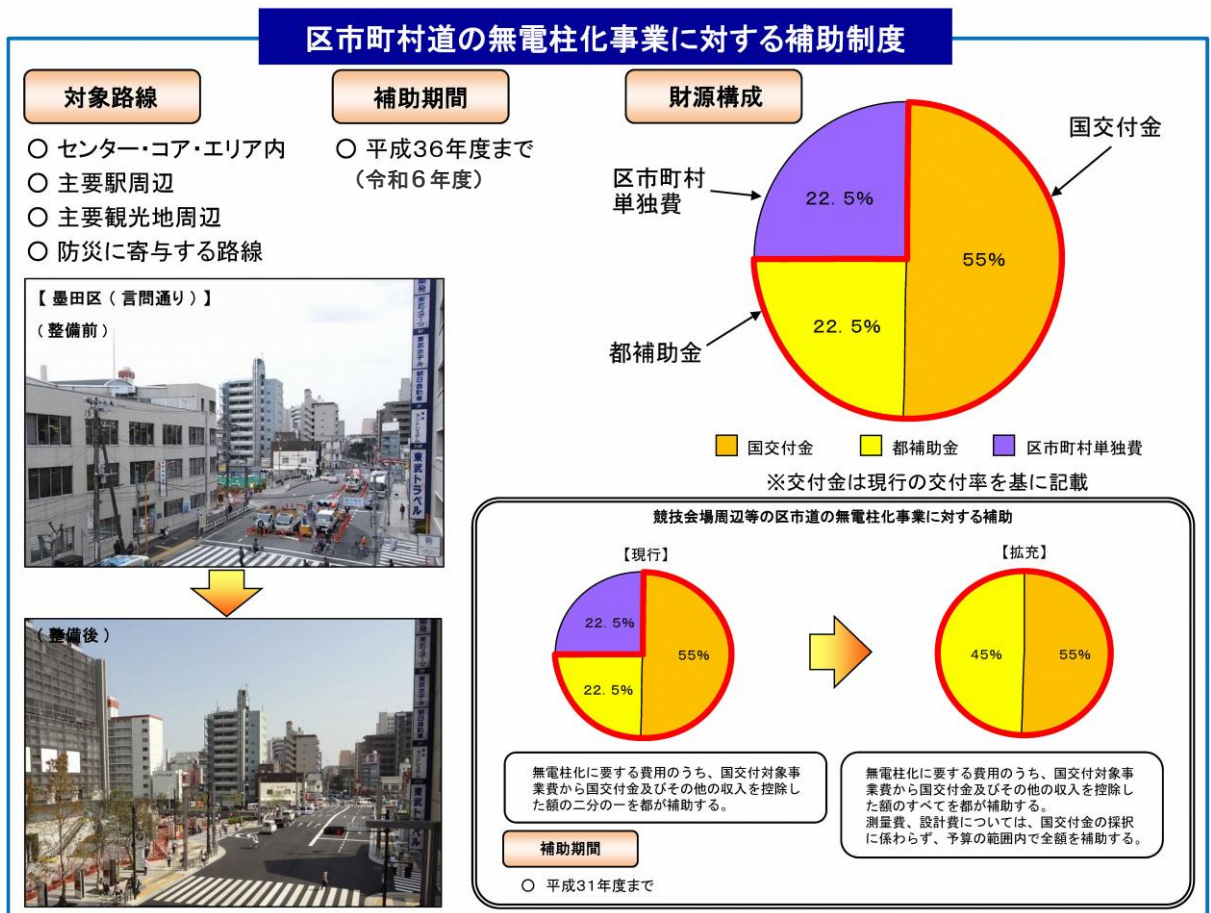
ECVP管	曲管レス配管		角型F E P管
	従来配管 	曲管レス配管 	
耐衝撃試験が新基準になったことを受け、材料の見直しによりコストダウンを図ったもの	新形状の受口構造、短尺管路の組合せで比較的高価な曲管を使用しないもの		矩形で軽量のフレキシブルパイプで多条管敷設を行なうもの

## 4.2 補助金制度の活用

無電柱化事業の推進を支援するために、国や東京都による補助金制度が整備されています。多摩市では、それらの補助金制度を活用し、財政的な支援を得て事業を進めていきます。

国では、社会資本整備総合交付金（防災・安全交付金）などの補助金制度が整備されています。

東京都では、区市町村道の無電柱化をする推進するために「センター・コア・エリア内」「主要駅周辺」「主要観光地周辺」「防災に寄与する路線」に該当する路線について、補助金制度が整備されています。



（出典：「東京都建設局HP」）

図-13 国と東京都の区市町村道の無電柱化事業に対する補助金制度

2024（令和6）年度まで「防災に寄与する路線」については、東京都補助金が拡充（45%補助、国交付金と合わせて全額補助）されています。

また、東京都では、歩道幅員が2.5m未満または歩道が無い区間など、無電柱化が困難な路線や区間の無電柱化を推進するため、補助率のより高い「無電柱化チャレンジ支援事業」を2017（平成29）年度に創設しています。

### 無電柱化チャレンジ支援事業制度

#### 区市町村道の無電柱化に係る支援

これまでの取組み

- 「防災に寄与する路線」等に対する 財政支援（平成20年4月1日より施行）
- 「区市町村職員向け」の研修会実施等による技術支援

新たな取組み

- 「無電柱化チャレンジ支援事業制度」の創設（平成29年4月1日より施行）
- ① 補助対象：推進計画の策定、チャレンジ路線の検討、チャレンジ事業
- ② 補助期間：平成30年度までに業務着手し、チャレンジ事業の認定を受けた場合、事業完了まで事業費を補助する。

無電柱化チャレンジ路線（補助対象）

- ・ 現道で無電柱化事業の整備実績がない区市町村
- ・ 原則、歩道幅員が2.5m未満、又は歩道がない区間があるなど地上機器を設置することが困難な路線

新たな取組に「チャレンジ」する路線

#### 無電柱化チャレンジ支援事業

財政支援

○ 事業化に向けた検討に要する費用や支障移設や本体構築等の工事に要する費用に対して補助します。

事業名	補助内容	補助率
無電柱化推進計画等の策定	○ 無電柱化推進計画や無電柱化基本方針を策定するのに必要な基礎調査に係る費用を補助 ○ 無電柱化推進計画や無電柱化基本方針の策定に係る費用を補助	都費100%
無電柱化チャレンジ路線の検討	○ 無電柱化チャレンジ路線の選定に係る調査費を補助 ○ 無電柱化チャレンジ路線の事業化に向けた技術検討（調査・設計）に係る費用を補助 ○ 技術検討会・地元協議会の運営補助及び地元合意形成に係る費用を補助	都費100%
無電柱化チャレンジ事業	○ 無電柱化チャレンジ路線の事業実施に係る費用を補助（測量設計費、移設補償費、工事費） ○ 地上機器設置に伴う用地取得に係る費用（用地費）を補助（国と個別協議が必要）	国費55%、都費45% (測量設計費は都費100%)

技術支援

○ 無電柱化チャレンジ路線の取組内容

① 浅層埋設や都の新技術等の低コスト手法を導入した検討

② 民地や公共用地を活用した地上機器設置箇所を検討

○ 技術検討会

- ・ 区市町村が無電柱化チャレンジ路線における技術的課題について電線管理者等の関係事業者と検討する会議
- ・ 都がオブザーバーとして参加し、国や都の低コスト化に向けた取組等の情報を提供

【 墨田区（タワービュー通り） 】

【 新宿区（三栄通り） 】

（出典：「東京都建設局HP」）

図-14 東京都の無電柱化チャレンジ支援事業制度



### 4.3 無電柱化に関する措置制度を活用した推進強化

#### （１）占用制限

以下の無電柱化法第 11 条、道路法第 37 条第 1 項により、道路の占用禁止や制限が可能となりました。これにより、緊急輸送道路以外に、交通が輻輳する箇所や幅員が狭小な道路への適用が可能となっています。必要に応じて占用禁止や制限を実施します。

#### 「無電柱化の推進に関する法律（無電柱化法）」第 11 条

国及び地方公共団体は、災害の防止、安全かつ円滑な交通の確保、良好な景観の形成等を図るために無電柱化が特に必要であると認められる道路について、道路法第 37 条第 1 項の規定による道路の占用の禁止又は制限その他無電柱化の推進のために必要な措置を講ずるものとする。

#### 「道路法」第 37 条第 1 項

道路管理者は、次に掲げる場合においては、第 33 条、第 35 条及び前条第 2 項の規定にかかわらず、区域を指定して道路（第 2 号に掲げる場合にあつては、歩道の部分に限る。）の占用を禁止し、又は制限することができる。

- 一 交通が著しくふくそうする道路又は幅員が著しく狭い道路について車両の能率的な運行を図るために特に必要があると認める場合
- 二 幅員が著しく狭い歩道の部分について歩行者の安全かつ円滑な通行を図るために特に必要があると認める場合
- 三 災害が発生した場合における被害の拡大を防止するために特に必要があると認める場合

#### （２）税制措置

無電柱化を促進するため、電線管理者が無電柱化を行う際、新たに取得した電線等に対し固定資産税の特例措置を適用します。

対象道路：現行の緊急輸送道路に加え、交通安全上の課題がある道路等（バリアフリー生活関連経路、通学路等）を追加する。

特例措置の内容：道路法第 37 条に基づき電柱の占用を禁止又は制限している道路の区域は、課税標準 4 年間 1 / 2 に軽減する。

また、上記以外の緊急輸送道路 課税標準 4 年間 3 / 4 に軽減する。

## 5. 施策を総合的、計画的かつ迅速に推進するために必要な事項

### 5.1 広報・啓発活動

無電柱化の重要性に関する市民の理解と関心を深め、無電柱化に対する市民の協力が得られるように、無電柱化に関する広報・啓発活動を東京都と連携して行います。

また、円滑に事業を進めるためには、地域住民の理解と協力が必要不可欠であることから、説明会やチラシ配布、工事看板の設置を行うなど、工事内容の周知に努めます。



（出典：「東京都HP」）

図-15 無電柱化に関するイベントの例



（出典：「東京都無電柱化計画」）

図-16 無電柱化事業の案内の例

## 5.2 関係者間の連携強化

多摩市が管理する道路において、ガスや水道等の地下埋設物の工事が実施される際は、道路工事調整会議等関係者が集まる機会を活用し、早めの調整を行うなど積極的に調整を図ります。

また、道路空間に余裕がない場合など、道路上への地上機器の設置が困難な場合においては、地上機器の設置場所として学校や公共施設等の公有地や公開空地等の民地の活用が必要となるため、施設管理者・都道管理者・沿道地権者との連携・同意のもと進めていきます。



写真-6 公園等の公共用地を活用して地上機器を設置した例（立川市内、福生市内）

## 5.3 無電柱化整備における事業委託の検討

無電柱化事業の推進を図るため、電線管理者の既存ストックを活用する場合において、電線管理者への事業委託を検討します。

また、東京都と連携した総合的な技術支援を行っている団体への事業委託を検討します。

## 5.4 計画の進行管理

優先的に無電柱化を整備していく路線について、事業の進捗状況を適切に管理するとともに、実施状況、上位計画や関連する計画の状況、関係法令の改正、低コスト化や工期短縮が可能となる新技術などを踏まえて、柔軟に対応していきます。

## 用語の解説

用語	解説	
か 行	既存ストック	既に占用埋設されている電力設備、通信設備(管路・マンホール・ハンドホール)のこと。これらを活用した地中化方式を「既存ストック活用方式」という。
	共同溝	共同溝の整備等に関する特別措置法に基づき、道路管理者が道路の下に共同溝を整備し、電力ケーブルや通信ケーブル、水道管、地域冷暖房管などを収容する都市施設。
	緊急車両	人命救助や消防等の緊急時において、道路の走行を優先させる車両。(救急車、消防車等)
	緊急輸送道路	阪神淡路大震災での教訓を踏まえ、地震直後から発生する緊急輸送を円滑に行うため、高速自動車国道、一般国道及びこれらを連絡する幹線道路と知事が指定する防災拠点を相互に連絡する道路をいい、第1次～第3次まで設定されている。
	景観法	都市、農村漁村の良好な景観の形成を促進するための法律。良好な景観の形成に関する基本理念及び国等の責務を定めるとともに、景観計画の策定、景観計画区域、景観地区等における良好な景観の形成のための規制、景観整備機構による支援などを定めている。
	現道	供用されている道路のこと。
	小型ボックス活用埋設方式	管路の代わりに小型ボックスを活用し、同一のボックス内に低圧電力線と通信線を同時収容することで、電線共同溝本体の構造をコンパクト化する方式。
さ 行	支障移設	電線共同溝を整備する際に、既に水道管等の埋設物がある場合に、その埋設物を移設すること。
	社会資本整備総合交付金	国土交通省所管の地方公共団体向けの個別補助金を一つの交付金に原則一括し、地方公共団体にとって自由度が高く、創意工夫を活かせる総合的な交付金。
	重要伝統的建造物群保存地区	文化財保護法により、城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存を図る伝統的建造物群保存地区のうち、国が、市町村からの申出を受けて、我が国にとって価値が高いと判断した地区。
	整備延長	無電柱化整備が抜柱まで完了している道路区間の延長のこと。
	浅層埋設方式	管路を従来よりも浅い位置に埋設する方式。埋設位置が浅くなることで、掘削土量の削減や、特殊部のコンパクト化、既存埋設物(上下水道管やガス管等)の上部空間への埋設が可能になることによる支障移設が減少する等の効果がある。
	センター・コア・エリア	概ね首都高速中央環状線の内側エリア。



用語		解説
さ 行	占用	道路上の電柱や道路地下の上下水道やガスを設置する場合など、道路に一定の施設を設置し、継続して道路を使用すること。
	ソフト地中化方式	歩道幅員が狭あいな路線や歩道が設置されていない路線などの理由により地上機器の設置が困難な場合、機器を街路灯等の柱の上に設置する方式。柱上機器方式とも言われている。
た 行	第五次多摩市総合計画第3期基本計画	多摩市における長期的かつ総合的なまちづくりの指針として、最上位に位置付けられる計画。
	多摩市地域防災計画	災害対策基本法第42条に基づき、住民の生命、身体及び財産を災害から保護するために多摩市防災会議が作成した防災計画。
	多摩市道路整備計画	多摩市道の道路整備の方針を定めた計画。
	多摩市都市計画マスタープラン	都市計画法第18条の2に基づき、多摩市の将来像を定めた、都市計画・まちづくりのガイドライン。
	地上機器	電線共同溝整備の際に地上に設置する機器であり、高圧電流を低圧に変換する変圧器や、電気を止める又は流れを切り替える開閉器を収容するもの。
	直接埋設方式	道路内の地中へ直接、電力線や通信線等を埋設する方式。
	電線管理者	電線及び通信線の設置及び管理を行う者。東京電力パワーグリッドやNTTなど。
	電線共同溝	電線共同溝の整備等に関する特別措置法に基づき、道路管理者が道路の下に電線共同溝を整備し、電力線や通信線などの電線類を収容する道路附属物。
	道路管理者	道路の維持管理を行う機関。一般国道や高速自動車道は国土交通省、都道府県及び区市町村道は地方公共団体が該当する。
	道路法	道路網の整備を図るため、道路に関して、路線の指定及び認定、管理、構造、保全、費用の負担区分等に関する事項を定め、もって交通の発達に寄与し、公共の福祉を増進することを目的とした法律。
	特殊部	電線共同溝において、宅地への供給のための分岐・接続等を行う分岐部やケーブルの接続を行う接続部のこと。
	都市計画道路	都市計画決定された道路。事業化されていないものを含む。完成後は道路法上の道路として管理される。
土地区画整理事業	都市計画区域内の土地について、公共施設(道路、公園、下水道等)の整備改善や、宅地の利用増進を図るため、土地の区画形質の変更、公共施設の新設又は変更に関する事業。	

用語		解説
は 行	バリアフリー	「バリア（障壁）」を「フリー（のぞく）」、つまり障壁となるものを取り除くことで生活しやすくしようという考え方。もともとは建築用語として、道路や建築物の入口の段差などを除去することを意味していましたが、現在では、物理的な障壁以外に、社会的、制度的、心理的なバリアの除去という意味でも用いられる。
ま 行	無電柱化	道路の地下空間を活用して、電力線や通信線などをまとめて収容する電線共同溝などの整備による電線類地中化や、表通りから見えないように配線する裏配線などにより道路から電柱をなくすこと。
	無電柱化率	道路の総延長と無電柱化された道路延長から、無電柱化整備がどのくらい進んでいるかを算出したもの。
ABC	D I D	Densely Inhabited District の略。人口集中地区のこと。市区町村の区域内で人口密度が 4,000 人/km <sup>2</sup> 以上の基本単位区が互いに隣接して人口が 5,000 人以上となる地区に設定される。

## 関係法令

無電柱化の推進に関する法律 【無電柱化法】（全文）

平成二十八年法律第百十二号

### 第一章 総則

#### （目的）

第一条 この法律は、災害の防止、安全かつ円滑な交通の確保、良好な景観の形成等を図るため、無電柱化（電線を地下に埋設することその他の方法により、電柱（鉄道及び軌道の電柱を除く。以下同じ。）又は電線（電柱によって支持されるものに限る。第十三条を除き、以下同じ。）の道路上における設置を抑制し、及び道路上の電柱又は電線を撤去することをいう。以下同じ。）の推進に関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務等を明らかにし、並びに無電柱化の推進に関する計画の策定その他の必要な事項を定めることにより、無電柱化の推進に関する施策を総合的、計画的かつ迅速に推進し、もって公共の福祉の確保並びに国民生活の向上及び国民経済の健全な発展に資することを目的とする。

#### （基本理念）

第二条 無電柱化の推進は、無電柱化の重要性に関する国民の理解と関心を深めつつ、行われるものとする。

2 無電柱化の推進は、国、地方公共団体及び第五条に規定する関係事業者の適切な役割分担の下に行われなければならない。

3 無電柱化の推進は、地域住民の意向を踏まえつつ、地域住民が誇りと愛着を持つことのできる地域社会の形成に資するよう行われなければならない。

#### （国の責務）

第三条 国は、前条の基本理念にのっとり、無電柱化の推進に関する施策を総合的、計画的かつ迅速に策定し、及び実施する責務を有する。

#### （地方公共団体の責務）

第四条 地方公共団体は、第二条の基本理念にのっとり、無電柱化の推進に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、その地方公共団体の地域の状況に応じた施策を総合的、計画的かつ迅速に策定し、及び実施する責務を有する。

#### （関係事業者の責務）

第五条 道路上の電柱又は電線の設置及び管理を行う事業者（以下「関係事業者」という。）は、第二条の基本理念にのっとり、電柱又は電線の道路上における設置の抑制及び道路上の電柱又は電線の撤去を行い、並びに国及び地方公共団体と連携して無電柱化の推進に資する技術の開発を行う責務を有する。

## （国民の努力）

第六条 国民は、無電柱化の重要性に関する理解と関心を深めるとともに、国又は地方公共団体が実施する無電柱化の推進に関する施策に協力するよう努めなければならない。

## 第二章 無電柱化推進計画等

## （無電柱化推進計画）

第七条 国土交通大臣は、無電柱化の推進に関する施策の総合的、計画的かつ迅速な推進を図るため、無電柱化の推進に関する計画（以下「無電柱化推進計画」という。）を定めなければならない。

2 無電柱化推進計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

- 一 無電柱化の推進に関する基本的な方針
- 二 無電柱化推進計画の期間
- 三 無電柱化の推進に関する目標
- 四 無電柱化の推進に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策
- 五 前各号に掲げるもののほか、無電柱化の推進に関する施策を総合的、計画的かつ迅速に推進するために必要な事項

3 国土交通大臣は、情勢の推移により必要が生じたときは、無電柱化推進計画を変更するものとする。

4 国土交通大臣は、無電柱化推進計画を定め、又は変更しようとするときは、総務大臣、経済産業大臣その他の関係行政機関の長に協議するとともに、電気事業法（昭和三十九年法律第七十号）第二条第一項第九号に規定する一般送配電事業者及び同項第十三号に規定する特定送配電事業者（次条第三項において「関係電気事業者」という。）並びに電気通信事業法（昭和五十九年法律第八十六号）第一百二十条第一項に規定する認定電気通信事業者（次条第三項において「関係電気通信事業者」という。）（道路上の電柱又は電線を設置し及び管理して同法第一百二十条第一項に規定する認定電気通信事業に係る電気通信役務を提供するものに限る。）の意見を聴かななければならない。

5 国土交通大臣は、無電柱化推進計画を定め、又は変更したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

## （都道府県無電柱化推進計画等）

第八条 都道府県は、無電柱化推進計画を基本として、その都道府県の区域における無電柱化の推進に関する施策についての計画（以下この条において「都道府県無電柱化推進計画」という。）を定めるよう努めなければならない。

2 市町村（特別区を含む。以下この条において同じ。）は、無電柱化推進計画（都道府県無電柱化推進計画が定められているときは、無電柱化推進計画及び都道府県無電柱化推進計画）を基本として、その市町村の区域における無電柱化の推進に関する施策についての計画（以下この条において「市町村無電柱化推進計画」という。）を定めるよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県無電柱化推進計画又は市町村無電柱化推進計画を定



め、又は変更しようとするときは、関係電気事業者（その供給区域又は供給地点が当該都道府県又は市町村の区域内にあるものに限る。）及び関係電気通信事業者（当該都道府県又は市町村の区域内において道路上の電柱又は電線を設置し及び管理して電気通信事業法第二百二十条第一項に規定する認定電気通信事業に係る電気通信役務を提供するものに限る。）の意見を聴くものとする。

4 都道府県又は市町村は、都道府県無電柱化推進計画又は市町村無電柱化推進計画を定め、又は変更したときは、遅滞なく、これを公表するよう努めるものとする。

### 第三章 無電柱化の推進に関する施策

#### （国民の理解及び関心の増進）

第九条 国及び地方公共団体は、無電柱化の重要性に関する国民の理解と関心を深めるよう、無電柱化に関する広報活動及び啓発活動の充実その他の必要な施策を講ずるものとする。

#### （無電柱化の日）

第十条 国民の間に広く無電柱化の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、無電柱化の日を設ける。

2 無電柱化の日は、十一月十日とする。

3 国及び地方公共団体は、無電柱化の日には、その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めるものとする。

#### （無電柱化が特に必要であると認められる道路の占用の禁止等）

第十一条 国及び地方公共団体は、災害の防止、安全かつ円滑な交通の確保、良好な景観の形成等を図るために無電柱化が特に必要であると認められる道路について、道路法（昭和二十七年法律第百八十号）第三十七条第一項の規定による道路の占用の禁止又は制限その他無電柱化の推進のために必要な措置を講ずるものとする。

#### （電柱又は電線の設置の抑制及び撤去）

第十二条 関係事業者は、社会資本整備重点計画法（平成十五年法律第二十号）第二条第二項第一号に掲げる事業（道路の維持に関するものを除く。）、都市計画法（昭和四十三年法律第百号）第四条第七項に規定する市街地開発事業その他これらに類する事業が実施される場合には、これらの事業の状況を踏まえつつ、電柱又は電線を道路上において新たに設置しないようにするとともに、当該場合において、現に設置し及び管理する道路上の電柱又は電線の撤去を当該事業の実施と併せて行うことができるときは、当該電柱又は電線を撤去するものとする。

#### （調査研究、技術開発等の推進等）

第十三条 国、地方公共団体及び関係事業者は、電線を地下に埋設する簡便な方法その他

の無電柱化の迅速な推進及び費用の縮減を図るための方策等に関する調査研究、技術開発等の推進及びその成果の普及に必要な措置を講ずるものとする。

（関係者相互の連携及び協力）

第十四条 国、地方公共団体、関係事業者その他の関係者は、無電柱化に関する工事（道路上の電柱又は電線以外の物件等に係る工事と一体的に行われるものを含む。）の効率的な施工等のため、相互に連携を図りながら協力しなければならない。

（法制上の措置等）

第十五条 政府は、無電柱化の推進に関する施策を実施するため必要な法制上、財政上又は税制上の措置その他の措置を講じなければならない。

附 則

（施行期日）

1 この法律は、公布の日から施行する。

（無電柱化の費用の負担の在り方等）

2 無電柱化の費用は、無電柱化に係る事業の特性を踏まえた国、地方公共団体及び関係事業者の適切な役割分担の下、これらの者がその役割分担に応じて負担するものとする。とともに、政府は、第十三条に定めるもののほか、無電柱化を円滑かつ迅速に推進する観点から、無電柱化の費用の縮減を図るための方策その他の国、地方公共団体及び関係事業者の負担を軽減するための方策について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

## 東京都無電柱化推進条例（全文）

条例第五八号（平成 29 年 6 月 14 日）

## 第一章 総則

## （目的）

第一条 この条例は、都市防災機能の強化、安全で快適な歩行空間の確保及び良好な都市景観の創出を図るため、無電柱化の推進に関し、基本理念を定め、東京都(以下「都」という。)及び関係事業者の責務等を明らかにし、並びに都の区域における無電柱化の推進に関する計画(第七条において「東京都無電柱化計画」という。)の策定その他の必要な事項を定めることにより、無電柱化の推進に関する施策を総合的、計画的かつ迅速に推進することを目的とする。

## （定義）

第二条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 一 無電柱化 電線を地下に埋設することその他の方法により、電柱(鉄道及び軌道の電柱を除く。以下同じ。)又は電線(電柱によって支持されるものに限る。第十一条を除き、以下同じ。)の道路上における設置を抑制し、及び道路上の電柱又は電線を撤去することをいう。
- 二 道路 道路法(昭和二十七年法律第百八十号)第二条第一項に規定する道路で、都が管理するものをいう。
- 三 関係事業者 道路上の電柱又は電線の設置又は管理を行う事業者をいう。
- 四 関係電気事業者 関係事業者のうち、電気事業法(昭和三十九年法律第百七十号)第二条第一項第九号に規定する一般送配電事業者又は同項第十三号に規定する特定送配電事業者であるものをいう。
- 五 関係電気通信事業者 関係事業者のうち、電気通信事業法(昭和五十九年法律第八十六号)第二百二十条第一項に規定する認定電気通信事業者であるものをいう。

## （基本理念）

- 第三条 無電柱化の推進は、無電柱化の重要性について都民の理解と関心を深めつつ、行われるものとする。
- 2 無電柱化の推進は、都、区市町村(特別区及び市町村をいう。以下同じ。)及び関係事業者の連携並びに都民の協力の下に行われなければならない。
  - 3 無電柱化の推進は、地域住民の意向を踏まえつつ、良好な街並みの形成に資するよう行われなければならない。

## （都の責務）

第四条 都は、前条の基本理念にのっとり、無電柱化の推進に関する施策を総合的、計画

的かつ迅速に策定し、及び実施する責務を有する。

（関係事業者の責務）

第五条 関係事業者は、第三条の基本理念にのっとり、電柱又は電線の道路上における設置の抑制及び道路上の電柱又は電線の撤去を行うとともに、無電柱化の推進に資する技術の開発を行う責務を有する。

（都民の協力）

第六条 都民は、無電柱化の重要性について理解と関心を深めるとともに、都が実施する無電柱化の推進に関する施策に協力するよう努めなければならない。

第二章 東京都無電柱化計画

（東京都無電柱化計画）

第七条 知事は、無電柱化の推進に関する施策の総合的、計画的かつ迅速な推進を図るため、東京都無電柱化計画を定めなければならない。

2 知事は、東京都無電柱化計画を定め、又は変更しようとするときは、区市町村が実施する無電柱化の推進に関する施策を反映するなど、区市町村と連携を図るものとする。

3 東京都無電柱化計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

一 無電柱化の推進に関する基本的な方針

二 無電柱化の推進に関する目標

三 無電柱化の推進に関する施策

四 前各号に掲げるもののほか、無電柱化の推進に関する施策を総合的、計画的かつ迅速に推進するために必要な事項

4 知事は、東京都無電柱化計画を定め、又は変更しようとするときは、関係電気事業者、関係電気通信事業者及び都民の意見を聴かななければならない。

5 知事は、東京都無電柱化計画を定め、又は変更したときは、遅滞なく、これを公表するものとする。

第三章 無電柱化の推進に関する施策

（都民の理解及び関心の増進）

第八条 都は、無電柱化の重要性に関する都民の理解と関心を深めるよう、無電柱化に関する広報活動及び啓発活動の充実その他の必要な施策を講ずるものとする。

（道路の占用の禁止等）

第九条 都は、都市防災機能の強化、安全で快適な歩行空間の確保及び良好な都市景観の創出を図るために、道路について、道路法第三十七条第一項の規定による道路の占用の禁止又は制限その他無電柱化の推進のために必要な措置を講ずるものとする。



（電柱又は電線の設置の抑制及び撤去）

第十条 関係事業者は、社会資本整備重点計画法(平成十五年法律第二十号)第二条第二項第一号に掲げる事業(道路の維持に関するものを除く。)、都市計画法(昭和四十三年法律第百号)第四条第七項に規定する市街地開発事業その他これらに類する事業が実施される場合には、これらの事業の状況等を踏まえつつ、電柱又は電線を道路上において新たに設置しないものとする。

2 関係事業者は、前項の場合において、現に設置し、又は管理する道路上の電柱又は電線の撤去を当該事業の実施と併せて行うことができるときは、当該電柱又は電線を撤去するものとする。

（調査研究、技術開発等の推進等）

第十一条 都及び関係事業者は、電線を地下に埋設する簡便な方法その他の無電柱化の迅速な推進及び費用の縮減を図るための方策等に関する調査研究、技術開発等の推進及びその成果の普及に必要な措置を講ずるものとする。

（関係者相互の連携及び協力）

第十二条 都、関係事業者その他の関係者は、無電柱化に関する工事(道路上の電柱又は電線以外の物件等に係る工事と一体的に行われるものを含む。)の効率的な施行等のため、相互に連携を図りながら協力するものとする。

附 則

この条例は、平成二十九年九月一日から施行する。